題字：桂川中学校美術部
津田　莉璃 さん

「挑戦しようとする意欲」それを胸に秘め

桂川中学校 校長 安藤 能之

今年度、本校では教育目標に「進取の気概を持つ生徒の育成」を掲げ、日々の教育活動に取り組みました。

○フィリピンのMCU（マニラ・セントラル・ユニバーシティ）との交流を中心とした桂川町の海外派遣事業に生徒が参加

昨年度から本格化したMCUの生徒たちとのオンライン交流授業を契機として、3年生の代表7名が、海外派遣事業に参加しようと自ら名乗りを上げました。

事前研修会に6日間の現地研修、事後研修会に町への報告会。接するたびに参加生徒の顔つきが変わっていき、その成果を発表した報告会での英語のスピーチは圧巻でした。人材育成をねらいとした目標と照らし合わせても、十分初期の目的を達成できたと思います。

○非認知能力の向上を目指して

単にテストの点数だけでは表せない、一人ひとりの胸に秘めた力を導き出すような非認知能力の向上も、学校として取り組んできたことです。

例えば、今年も本校の部活動から筑豊大会・県大会へ数多くの生徒が出場しました。また、ラグビーやサッカー、ボクシング等の地域の各クラブ等に参加している生徒からは九州・全国大会へと出場し、大きな成果をあげた生徒も数多くいました。

また、今年もふるさと桂川プロジェクトに沿って「そーつくカルタ」による地域探索や、「ときめきウォークin桂川」等のボランティア活動への参加を通して、地域や社会への参画意識を高めようとしてきました。「鍛えてほめて子どもの可能性を伸ばす」の言葉どおり、生徒たちは様々な活動と経験を経て、新たな自分へと成長していったと感じます。

このように、今後もひるまず果敢に挑戦し、進取の気概を表す生徒の育成に努めてまいります。

そして、言うまでもなく、これら一年間の歩みの中には、地域の皆様からのたくさんのご協力があったことは事実です。本当にありがとうございました。一年間の学校教育へのご協力に、心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

「架け橋期」の教育の充実をめざして

桂川幼稚園 園長 城石 俊弘

3学期は1年間のまとめと進級や卒園・入学に向けた準備の期間でもあります。年長クラスの1年間に大切になってくるのが、小学校の子どもたちに憧れの気持ちをもったり、小学校生活に期待を寄せたりするようになる機会を設けることです。

文部科学省は、幼稚園5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」とし、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期だと位置づけています。

本園ではこの架け橋期に、

① 体験・経験を重視した保育の充実
② 小学校生活を意識した活動
③ 小学校への期待を高める活動

等を重視した取組を進めています。

中でも②では、椅子に座って話を聞く姿勢、時間を意識した行動、持ち物の管理や整理整頓、人前で話す経験、あいさつや返事の仕方等々、小学校生活のスムーズなスタートを目指した活動の充実を図りました。

また③では、桂川東小学校の1年生とさつま芋の栽培活動をしたり、桂川小学校1年生の生活科「秋の宝物ランド」に招待してもらったりしました。

桂川小学校での4回の給食体験・交流も、5年生の教室で行い、交流を進めることができました。

このように幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童、先生との交流の機会を積極的に設けることが、小学校生活への不安を小さくし、期待感を高めることにつながっています。

これらの交流に加えて、とれたて村や桂川東アンビシャス広場の方など地域の方々との交流活動も社会性や協同性を育む上で大変意義深いものです。

本年度、「架け橋期」の教育の充実をめざして教育実践を積み重ねましたが、小学校や地域の方との連携・多くの支援なしにはできないことだと改めて感じています。

今後もたくさんの方と連携して、開かれた園づくり、本園教育の充実に努めたいと考えています。